

科目名称：	造形表現指導法実習Ⅱ	
担当者名：	森田 ゆかり、太田 望	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
◎ 造形活動を通して子ども・他者への理解を深める。 ・造形活動における全般的な発達・道筋を踏まえた上で、個々の「表現」や「思い」を読みとり受容できるよう‘みかた’‘考え方’を養う。 ・実践の場で子ども・親子・利用者などの活動を支援するため、年齢や実態に即した活動内容・環境・対応などを考える。 ・造形活動を通して人と関わる面白さ、協働する喜びなどを知る。 ・「3つのD」のサイクルの中で学び、環境構成、コミュニケーション、支援の力を身につける。		
授業の達成目標・到達目標		
・環境構成力（用具の整備を含む）が身についている。（デザイン） ・表現の手段や方法を対象者、場、ねらいに即して考えられる。（デザイン） ・表現者の気持ちを読み取り、その人（子）らしさを認めることができる。 ・子どもの姿（表情・行動・言葉）を捉え、記録し、次の活動に活かす技術を身につけている。（ドキュメンテーション・デザイン） ・調べ学習や研究に対して主体的・計画的に取り組むことができる。 ・美術を通して「保育」の見方・考え方が広がり、造形活動（表現活動）の意義を理解できる。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》森田 アートスクール講師（2歳児～小学生の絵画・造形指導）	《経験年数1》2年6か月
	《内容2》森田 アートディレクター（子ども対象のワークショップなど企画・実践）	《経験年数2》4年10か月
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実践のドキュメンテーション	対象者の姿・気持ちを読み取り他者に伝わるように記録することができる。	対象者の姿・気持ちを読み取り記録することができる。	対象者の姿（表情・行動・言葉）を捉え記録することができる。	対象者の姿（表情・行動・言葉）を捉え記録することができない。
デザイン	対象者・場・ねらいに即して、様々な素材・用具・技法を期待以上に応用し考えられる。	対象者・場・ねらいに即して、様々な素材・用具・技法を応用し考えられる。	対象者・場・ねらいに即して、様々な素材・用具・技法を考えられる。	対象者・場・ねらいに即して考えられない。活動にあまり参加していない。
ディスコース（グループワーク・プレゼンテーション）	他者の考えを尊重し、自分の考えを他者が納得できるように伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えを論理立てて伝えることができる。	他者の考えを尊重し、自分の考えも伝えることができる。	自分の考えが他者に伝わらない。活動にあまり参加していない。
実践のまとめ	研究の成果を他者に伝え他者を納得させることができる。	研究の成果を論理立てて他者に伝えることができる。	研究の成果を分かりやすく他者に伝えることができる。	研究の成果が他者に伝わりにくい。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 インターンシップの計画・準備（プロジェクト活動）	『実践のまとめ』バックナンバーの、プロジェクト活動に目を通しておく。	30分
第2回 インターンシップ・実践（プロジェクト活動）	第1回授業での計画・準備を復習・確認。	15分
第3回 インターンシップ・実践（プロジェクト活動）	第1回授業での計画・準備を復習・確認。	15分
第4回 インターンシップの振り返り・ディスコース（プロジェクト活動）（電子黒板使用）	各自ドキュメンテーションを仕上げしておく。	30分
第5回 インターンシップの計画・準備（プロジェクト活動）	第4回授業でのディスコースをもとに資料になるものを収集しておく。	30分
第6回 インターンシップ・実践（プロジェクト活動）	第5回授業での計画・準備を復習・確認。	15分
第7回 インターンシップ・実践（プロジェクト活動）	第5回授業での計画・準備を復習・確認。	15分
第8回 インターンシップの振り返り・ディスコース（プロジェクト活動）（電子黒板使用）	各自ドキュメンテーションを仕上げしておく。	30分
第9回 インターンシップのまとめ・ディスコース（プロジェクト活動）（電子黒板使用）	インターンシップでのドキュメンテーション、資料などを整理。	20分
第10回 インターンシップのまとめ・ディスコース（プロジェクト活動）（電子黒板使用）	インターンシップでのドキュメンテーション、資料などを整理。	20分
第11回 プロジェクト活動のまとめ（「ポスターセッション」および『実践のまとめ』原稿作成）	プロジェクトごとに主体的・計画的に課題を進める。	15分
第12回 プロジェクト活動のまとめ（「ポスターセッション」および『実践のまとめ』原稿作成）	プロジェクトごとに主体的・計画的に課題を進める。	15分
第13回 プロジェクト活動のまとめ（「ポスターセッション」および『実践のまとめ』原稿作成）	プロジェクトごとに主体的・計画的に課題を進める。	15分
第14回 プロジェクト活動のまとめ（「ポスターセッション」および『実践のまとめ』原稿作成）	プロジェクトごとに主体的・計画的に課題を進める。	15分
第15回 「ポスターセッション」打ち合わせ	プロジェクトごとに主体的・計画的に課題を進める。	15分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、上記内容以外に次回までの小レポートをまとめることになる。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
 実践のドキュメンテーション・ワークシート30%、実践のまとめ50%、授業への積極的関与20%

#### 課題に対するフィードバック

「ドキュメンテーション」をもとに、グループで「ディスコース」（必要に応じて全体で「ディスコース」）し、次の活動を「デザイン」する授業を行っている（レジジョ・エミリアの「3つのD」 KINJO特化造形表現モデル）。

#### 教科書・参考書

教科書：『美育文化ポケット 第21号～第24号』 公益財団法人美育文化協会、『子どもが絵を描くとき』 磯部錦司著 一藝社、  
 参考書：『特化美術表現 実践のまとめ』バックナンバー、必要に応じてプリント配付